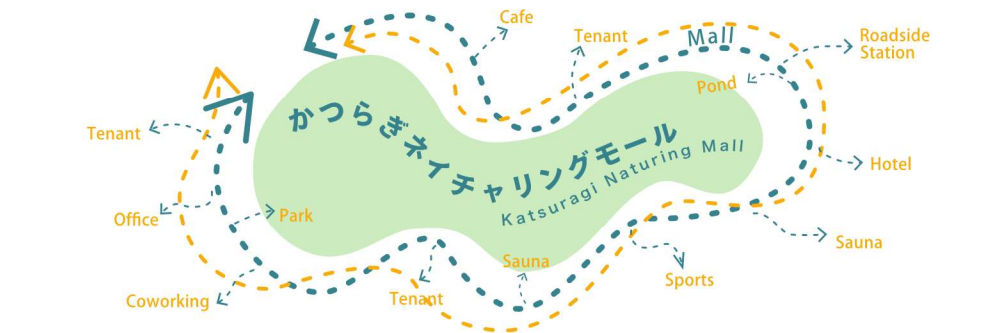


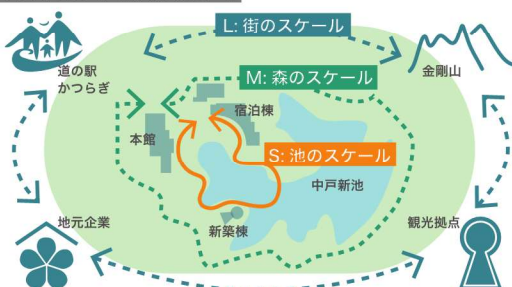


「かつらぎみらいの森」は豊かな自然と様々な用途に転用できる施設群を持っています。しかし、その広大な敷地は現状、維持管理が難しい状況を迎えています。敷地および施設を改修するにあたり、**地域住人や街の魅力を手繰り寄せて結びつけるような施設のあり方が望ましいと考えました。**そこで「ネイチャリングモール/naturing mall」を中心とした計画を提案します。
 「ネイチャリングモール」は森の中や各施設を横断し、循環する遊歩道です。またそこに隣接するように、ホテルやサウナ・浴場、コワーキング・子供スペースなどコアになる機能を併設することで、「ショッピングモール」のように目的がなくても誰もが自由に出入りができるスペースとして整備します。

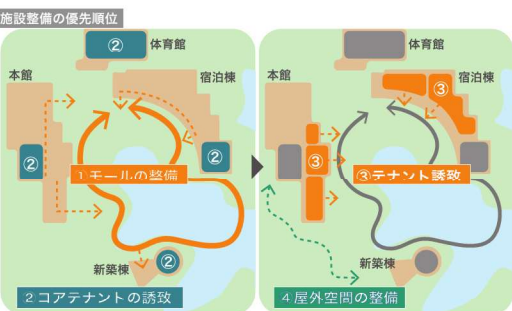
魅力的な動線空間の整備から、既存の設備や環境に適した小規模のテナントを募集し、地元で商いを行いたい住民や関西から進出したい店舗や地元の企業のコラボショップなど、敷地だけでなくエリア全体を活性化することを目指します。将来的には奈良県の各観光地や自然遺産を楽しむ際の拠点になるような人材やアクティビティが集まる場所になることで、**かつらぎみらいの森の「関係人口」を増やしていくことで、地域ごと活性化する施設を目指します。**

1 かつらぎの森・街・ひとを結びつける3つのネイチャリングモール

ネイチャリングモールの3つのスケール



2 モールとコアテナントから始まる段階的な整備計画



3 森の自然を楽しむ、循環させ、維持する屋外アクティビティ



4 自然・街・ひとを結び、連携する観光ネットワークの構築



「ネイチャリングモール」は施設と自然、人と街を結びつける遊歩道で3つのスケールを持っています。

S：池のスケールでは、各施設から岸辺を巡る最も小さいモールで施設のメインの動線です。誰でも自由に歩くことができ、各テナントや池の風景を楽しめる空間です。

M：森のスケールでは、森全体の外周と屋外アクティビティを巡る遊歩道です。屋外スペースが基本ですが、スポーツができるグラウンドやサウナ、グランピング・BBQエリアなどがあり、自然を多様な方法で楽しめる空間です。

L：街のスケールは、敷地を飛び出して周辺の施設との連携を図るネットワークです。主に「道の駅かつらぎ」や近隣の集落・金剛山ハイキングルートなどの観光地と連携し、観光拠点として地域の活性化を担い、街に相互作用をもたらすことを目指します。

施設の整備は優先順位を決め、段階的にを行います。まずモール（遊歩道）を整備を行い、そこに「コワーキングスペース」「サウナ・浴場」「ホテル」「カフェ・レストラン」「子供スペース」などの施設に欠かせない「コアテナント」を整備します。
 それぞれ施設の機能を支える重要なテナントで、地元の人も観光客も施設を自由に利用する事ができます。また、これらは計画時から募集を行い、ともに施設設計を協議し、長期的に参加する事業者を想定します。

敷地を自由に巡るモールとコアテナントを整備した後は、大小さまざまな「テナント」を誘致します。地元の企業や個人事業者、近隣の県外の店舗も気軽に开店できるような小規模なテナントの他、ワーケーションも想定した中規模のオフィスなど、それぞれの特性に応じて、多種多様なソーシングを行います。地元の力を結びつけ、徐々に関係人口を増やし、地元の賑わいを創出する施設となることを目指します。

敷地の外周を巡る遊歩道と屋外アクティビティの整備を行います。既存遊歩道を活かしつつ各所に「サウナ・浴場機能」や「BBQエリア」森の中に点在する「グランピングエリア」やグラウンドを活用した「キャンプエリア」など、様々な屋外アクティビティを随時整備していきます。

既存の広場や古墳を巡る無料の遊歩道は自由に巡ることができ一方で、屋外アクティビティは有料とし、これらの収益は森の維持管理のための費用として活用します。またサウナやBBQなどの熱源を利用する設備には、極力森林を整備した際に伐採した薪や木材などの利用し、環境負荷を考慮したエネルギーの循環利用も想定した計画とします。

ただ自然を守り、維持するのではなく、森の自然を楽しみながら、積極的に活用し、資源を循環させることで、無理なく環境を維持する仕組みを目指します。

施設や森の整備は敷地内で完結させずに、敷地を飛び出し周辺施設や観光地と連携を図るネットワークとして計画します。

特に「道の駅かつらぎ」とは相互の交通を増やし、それぞれの役割をもった施設として連携します。「道の駅」は飲食やスーパーを基本とした短期的な滞在とし、「かつらぎの森」はショップやカフェ・オフィス・ホテルなどの中期・長期的な滞在ができる施設として整備し、エリア全体を滞在しながら楽しむことができる各種プログラムを作ることで、観光客の集客を目指します。

また将来的には奈良県内にある観光の拠点となることを目指します。集落を巡る葛城古道ツアーや金剛山のダイヤモンドトレールの拠点となったり、地元企業とのコラボレーションによる飲食プログラムや、森林ツーリズムと連携したワーケーションなど、人とアクティビティのネットワークを構築し、施設の外に広がることで観光に寄与することを期待します。

本館：ショップ・オフィスゾーン



既存諸室の壁を一部撤去し、回遊できるモールと連続したテナントゾーンを作ります。それぞれのテナントは屋外のデッキに接続し、外からもアクセス可能とすることで、池側に開放されたショップとし、デッキとの一体的な利用も可能です。

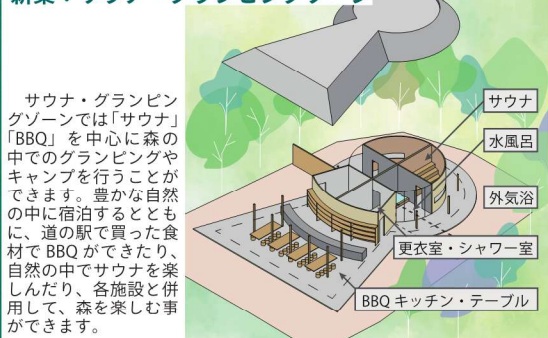
宿泊棟：カフェ・ホテルゾーン



宿泊棟は元々厨房が各階にあり、それらを利用したカフェ・飲食テナントを配置します。例えば、フードコートにも、食品製造を中心としたショップにも対応でき、半屋外のデッキを活用した自然の中で食事を楽しめる飲食スペースを中心とした計画とします。



新築：サウナ・グランピングゾーン



新築：ネイチャリングモール・護岸デッキ



ネイチャリングモールは各施設や森の中、池を横断する遊歩道です。買い物や食事のためはもちろん、ただ散歩することも季節の移ろいを感じることもできる、誰でも自由に巡ることができる場所です。